刊本

こだま

1981. 3
33号
上越市 東本町
5-1-38

♪. 雅沢のうた ♪♪♪♪

一.
長い冬が おわり 白いカールで
グリセード
尾根に 妙徳高に おどりの
そよ風
美しい 美しい 妙徳高の山よ ♪

二.
紅く染まる山を
ひとり ビュッテで みつめていた
夜が ふけて 星が降り
うた声が きこえる
なつかしい なつかしい
雅沢の夜
なつかしい なつかしい
雅沢の夜

私の のぼり　Part 4

今回は〝ニルス〟の山のぼりの巻です

ボクサンの山のぼり、それは小さい頃家の裏山へ登ったり近くの山へ山菜とりにいったりするくらいだった

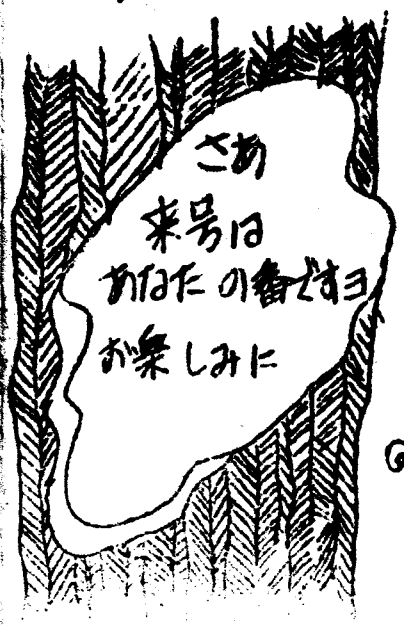
ところが今から2年と少し前〝こぶし〟が毎年やっている大衆山行の時会社の人と2人で燕岳へつれていってもらいました
この時は装備というものがまったくなくてはき古したジーパンとズック、そしてスポーツバックで2763mのこの広大な山を登った。

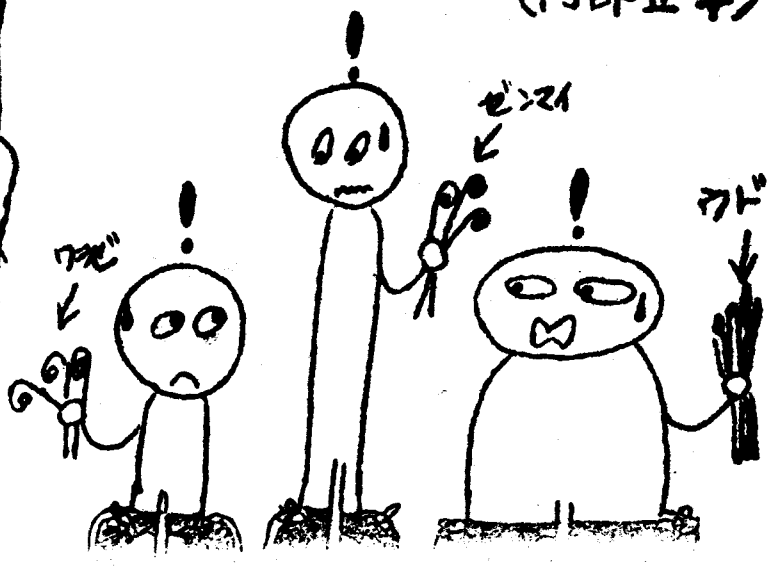
北アルプスの山々を見て（山名はぜんぜんわかんなかったけど）山の雄大さに感動したりはてしなく続く空の青さに感激しこぶしの門をたたいたのでした。
あれからはや2年とちょっと、いろんな山に登りました。

今考えて見るとボクサンが山に対して適応性が強いのは小さい頃から山菜とりのため山野を歩きガケをのぼり重いリュック（中味はゼンマイ、ワラビ、ウドなど）をせおい山から山へ歩いたり学生時代陸上で鍛えた足があるからかな——なんて考えたりして....

さあ、こういうことで、ニルスのふしぎな山のぼりが始まったわけです。

（阿部正幸）





戸隠冬山講習会

＊メンバーは 2/21 杉山　2/21・22 宮脇・大島

2/21 朝から雪が降っている　1日の大雪以来 2月にしては不思議なほど好天気が続いていたが久しぶりの雪だ。

そんな雪の中を A.M. 6:20 に出発する。　途中、宮脇氏をのせていく。

新潟県では ひどい降り方をしていた雪も 長野県に入るとうす日を射し、雪も時々 思い出した様に降ってくるだけになる。
奥社入口に 10:30着　すでに長岡パーティと桑原・杉本氏が来ている
すこし遅れて 清津パーティが到着

準備を整え 10:50 奥社入口発
順調な道が奥社までつづく　奥社からテント場までは ゲッコウな登りになるが、しまった雪の上に昨日から降ったサラサラの雪があるだけでラッセルすることもなく快適な登りだ
「2年 3ケ月ぶりの雪山の感覚が靴底を通し伝わってくる！」

テント場着 P.M. 1:45　テントを設営し 2:15より講習会に入る
講習内容としては、アンザイレンしてビレー点のある場合の登り方、確保のし方
ピッケルを使っての確保のし方・　雪庫に片方が埋りおちての確保・
最後は 雪崩捜索を行った。

4:15すぎに練習をおわりテント場へ戻る　この間に新潟 糸魚川パーティも到着　食事のあとは長岡のテントへ入りこむ
各自の山旅の始せんコース等々話はつきない……!!
夏は、せひ一緒に山へ行こうという嬉しい話まで伝えてくる　シェラフへは 11:20 ごろ入る　満天の星のもと 雪にだかれて眠るのは久しぶりだが 楽しい快適な夜だった。

22日は6:20にテントを出発する
西くつの所で、アンザイレンをする。　鎖は雪に埋まって見えない
不倒の岩壁の上の鎖のとまで、コンティニュアスで登る。
ここよりスタカットでの登りを初める。　トップで登るが、鎖がかくれるくらいの雪がついているので、傾斜も急になっていて、かなりの高度感を味わえた。

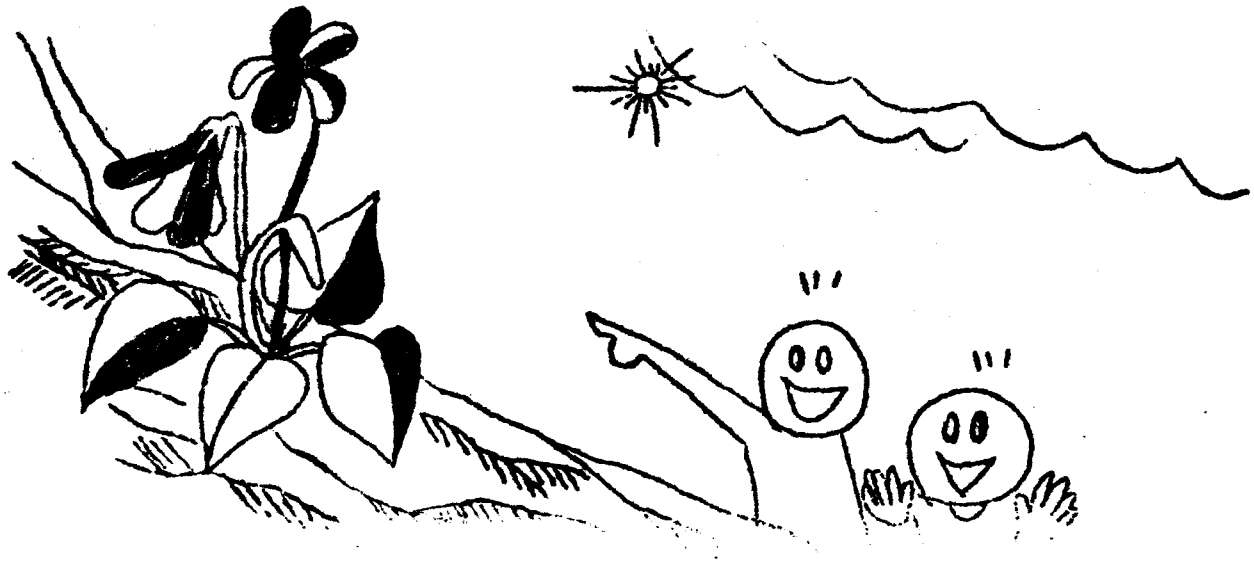
雪がなりと簡単に渡れる鎖でのトラバースの所も、雪がついている為に、体がそりぎみになるので雪壁を少しくずしながら一歩一歩慎重に行動する
最後のピッチは、この一番急な雪壁をのぼり切り八方睨のみえるところで今日の登りは中止とする
下りは、9mmザイルダブルでの40mラップザイレンで始まった。　それより下はピッケル1本が頼りの下りとなった。

他のパーティより先に下ったので西くつの所で岩につかまりしながら時間をつぶしたが降りてこないので、下ることにする
西くつから五間長尾までのトラバースでは、傾斜の関係で、他のところより雪がくさっているのか、ライゼンが、困ることになってしまう。

五間長尾から先は春山での楽しみの1つであるシリセードでテント場まで下る　ワオッ!

テントの撤収が終る→全員がそろい簡単な出発式をやり2日間の日程を終る
今回の山行は雪山の楽しい面だけが出てきた山行だったが、当会にも雪山の素晴らしさを知らない人がいるが、　もっと多くの人から雪山に入り、その素晴らしさに、ぜひふれてほしい。

〔大熊　博〕



池の平スキー

1981年 2月14日～15日

参加者 清水・古木・井浦・阿部・石平

最初の話では10人位い人達が参加するはずのスキーキャンプであったが、
なんと現場での参加も含めて やっと5人であった 石平氏は現地参加

14日、4:30に事務所を終業し同時に愛じ出す しかし阿部君の
待つ北新井の信号まで 40分 かかってしまった でも阿部君はまだ
来ていない 良かった！
大喜君の参加がはっきりせず考えたが、置いていく事にする。

新潟ターンパイレで夕食を取り「池の平スキー場」へと向かう駐車場手前の
道は 雨が降ったので雪がとけて グサグサ ……
やっと駐車場に車をいれる バンビ食堂の横にテントを張ろうと
下見をしに行くと、 ガスの中から な、なーんと石平さんが スーッと
出てくる いないはずの人に声をかけられて ビックリ！
荷物をはこび込み、テント設営 あとは清水、井浦両氏を待つだけだ
雨のないときの待つ身のつらさ 長いことたらない

9:00すぎに清水・井浦両氏が到着 ワイン1本 義理パックアケ酒はこれだけ
「ギャー 何てことだ」 人数が減った分だけ食料が余ると思いきや、
10人分のスキヤキを5人で ペロリと平らげる 残りも食べないうちに、スキ
ヤキの中にキムチも入れはじめた 私もーダメ とっくにキムチ。

♫ 井浦の ♫

次の朝 夜のうちは見事すばらしい積雪であった 朝日がはえると同時にガス
が立ちはじめた 出発がどんどん遅れる 何とか9:00に出発
ラッセルで雪をかきわける 私の悪目のカゼで熱がでて早々にテントにもどり
込み出てしまう 昼めしは素うどんのみ 残念な快適なスキーだった。
帰りには入野てつちゃんの民宿で「ラーメン」をのんで帰った ……

＊ 今回 ボクの考えたこと
「スキーばっか行かんで、たまにゃ山へ行こさオ 会員のシロ！」

古木 筆

4月の山行計画

4/12 [illegible]、[illegible]

4/18～19 … 妙高山周辺

みなさん、いよいよ春山です
お花見山行に
山かけましょう！

春ともなると絵画シーズン
のようですね。
[illegible]ンになってやめる人
しばらくやめない人 いろいろ
だけど、引退する人は
アトガマつれてきましょう

新入会員

どんどん

いれましょう

今月の標語

見もつけよう

鳥も　モモエも

やめたけど　こぶしの会

にゃ　ノルマあり

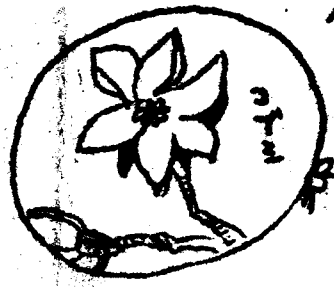
1日 1善ではない

1日 1人の根性だ

～青柳良子さん 長岡へ～

治の試験を無事 かわり
めでたく、ナイチンゲールと
なり出発です。

別れはちと淋しいけれど
また、山の上で会おうね



北国の春、とは
うたってるけど
そろそろ
こぶしの花が
咲きますね

第2弾 谷川岳シリーズ

（前号のあらすじ）くたびれはてたヤッチンは はたして頂上に着けるでしょうか？さあ、早く読みましょう!!

下りもかなりあった。途中で天尾さんから 雨ズボンをかりてはく
みんな私のため やさしくしてくれるので うれしい がんばらねば
とファイトが出てくる
笹畑の中を 蓬峠めざして ひたすら下り続ける．久しぶりに雪をみて
ホッとする 喜んでいる私を 横に 井浦さんは 人をバカにして
それは 雪洗 だという．
下りは足どりもかるく ウサギのようにはねながら おりる でもな
かなか 蓬峠は はるかかなたにあるのか
ひざが ガクガクしてくる

－18：15－私達は 予定を大幅に遅れたが 無事蓬峠に着いた．
体中の力が ぬけて 即すわってしまった。テントのはる場所を
見つけて テントの用意をする 私は何もかも初めてなので
ボケッと つったっていた。体中ビショビショで冷えきっている
最初に 着がえさせてもらう セーターを着たら少しは 暖かく
なったが ズボンのきがえが ほしかった．

夕食のメニューは 野菜いため、ワイン and ビールで乾杯！
お疲れさま．最高においしかった．
家を出てから はじめて液体を 口にしたため 体中にワインが
流れていく様である．疲れているので アルコールのまわりも
早い．とても!!!気持ち．コンロをつけているので テントの中
は 想像以上に あったかい．宮勝さんから エアマットを
かしてもらったので 腰が 冷えず よかった
みんな今が 一番幸せという顔をしている．寿し太郎を ごはん
にまぜたが 好評で なかった．
宮勝さんは 体調が 悪く大好きなビールも ほんのちょっと．
かわいそうに．天尾さんと 阿部君、上気げんで がんばっている

となりでテントをはっていた学芸大のお兄様達に 注意され
ねる準備．山の夜は 早い
－9：30－おやすみなさい
シェラフを ビニール袋にいれてこなかったので 井浦さんに
おこられる．雨ズボンがわは ビショビショ さいわい中は わり

ズボンを ぬいで シュラフに はいればよかったと後悔している
体は 疲れているけど なかなか ねつかれない.
隣者ちょさそうに イビキを かいている人が うらやましい

日時計とまちがえて
-4:00- 起こされる
テントの外に 出てみると とてもまぶしい. きのうの雨が
うそのように 真っ青.

山の谷間には 白いあめのような雲が フワフワ浮いている
澄みきった空気 とても おいしい. 気分さわやか
山に来ているんだなあとつくづく感じた
やっぱり来てよかったと 思い直す. きのう登った山をみて
感激.
テントの前で 両部君と パチリ.

山の朝も早い. 学生(学芸大)さん
たちは 6:30にもう出発.

私達は これから 朝食
ルンルン

もちラーメン
なかなか おいしかった
関西と 関東風に分かれた
みたい.

食後のお茶にはまいった.
こし時がないので トイレット
ペーパーで 悪戦苦闘
これも生活の知恵かな?
テントは 外見よりも 以外と広い. 水滴が つかなければ
いいのだけれど

足どりも かろやか さあ下山. 下界に近づくにつれ 暑さも
キビシイ. セミの声も 夏を感じる.

-9:30- 着につく.
顔を 洗い 手しゃくで 水をのむ おいしい!! カサを広げて
セーター、帽子を ほす. 中食(昼食ではない)は冷やし中華.
沢で 冷やした 冷やし中華は 最高.
食後のおうせい. 生存競争が はげしい. 食後の紅茶とてもおいしい
きてよかったと またまた思いなおす.
[illegible]生ゼミが しきりに 鳴いている.

—12:00— 出発

土たろ駅に着く。一見田舎風のどこにでもある様な駅だけど
ホームに はいってみると まくらぎの間には にじますが
泳いでいるし 電車に 乗るまぎわに あわてて駅員が、一人一人
追いかけて キップを 切ったりして ちょっと 信じられない
ユニークな 駅でした。

電車の中で 乾杯。おつかれさまでした

直江津へ向い、ゆられながら スヤスヤ。何もかも 初めての
体験でした。
苦しかったです。つらかったです。でもサークルのみんなと味わえ
たことは とてもよかったです。

何もわからず ただつりていったことは 反省しています。
事前に どんな山を どんなコースで 登るのかを よく研究
すべきでした。

今回にこりず また一緒に つれていって下さい。

—1980.6.27— 山にひかれている
康子でした

(渡辺康子)

Air・MaiL

いよいよ八橋さんは、カトマンズを出発し、チョー・オユーへの第1歩を踏み出すようです
ドキドキ・ワクワクの気持ちで、この手紙を書いたのかも知れません
チベット・ブルブル絶好調で、チョー・オユーの岩肌にへばりつくことを、
こぶし一同心をこめて祈っております・・・・ハイ。

ナマステ！　3/6

寒かったカトマンズを後にもいよいよ今日で別れを告げ
ネパール出発地のルクラへとフライト・・・・・。

カトマンズにもようやく春が来たけれど僕らはそれ
にも別れをつげ山の中へ・・・。

たるんだ体を引き締め高度に身体を慣らし、精力に
満ち溢れた登山活動に向かいます

では　ラムガルリス（御元気で！）

"蔵こぶしの会殿"

From Yasuhashi

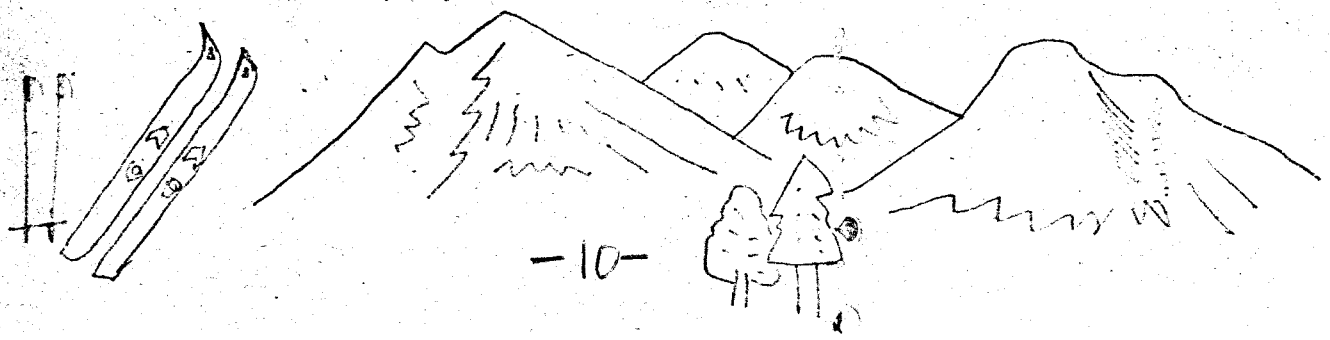
私の春山装備

夏山から春山、そして冬山へと進んできた登山の歴史をふりかえるまでもなく，何かしらほのぼのとした暖かみを感ずる春山において、積雪期登山の第一歩をふみ出すことは、もっともものぞましいことであろう。

しかし春山とはいっても中部の高山地帯は一度荒れると冬山となんら変りないばかりか、湿気などという大敵が冬山以上に存在しているので、その点に対する気構えだけはたえず持っていなければならない。

その装備にしても冬の登山に経験のある人は，それに準じてそろえればよいわけだし，始めて雪の山に向われる方は，冬のスキー合宿の経験や夏山での体験を存分に生かしていただきたいと思う。そして自分の持てる力，身につけている装備の実力をよくわきまえて，適切な判断のもとに目指す山頂にぶつかってもらいたいと思う。そうすることによって春山の素晴らしさは自分達のものになるだろうし，より困難な冬の登山にも向うことができるのである。毎年毎年雪の山に出かけていてもなかなかすっきりいったというようなことはなくて、どうしても重複があったり不足があったりの連続なのだが，これはやはり研究心を強くして、それに経験を加えて行く以外に方法はあるまい。私も冬の北岳から帰って，来るべき春山にそなえて人並に自分の装備を見直したことや感じたことなどを思いつくままに記してみたい。

（石坂昭二郎）



3月8日. 日曜日. 天候 雪・くもり、 メンバー 清水・古木・石平
場所は、杉の原スキー場、 井浦・上石・(友達2人)

今回のスキーも天気があまりよくなかった。だがメンバーが最高だったのでよい。雪質もよかった。上石さんの友達も今シーズン2回目とかで、しんようなスベリだった。

なんといっても、一番の出来事は、第3リフト中間で○○さんがスキーを雪にくったてて、リフトから落ちたことである。

だれが落ちたかは、ないしょ!

「ザッ! ボン4 風に言うと、
第3リフトに○○さんが乗ったんです。エー それでどうなったんですか?「山本さん」
スキーを雪にくったてたんです。「川崎さん」
スキーを雪に、くったてたまま登ったんですが
足がぬけなくなったんです。それで落ちたんです。「川崎さん」
ワー なんですか「山本さん」
それでほかの人達は、どうしたんですか?
ほかの人達は、赤の他人のような顔で
○○さんを見てたんです。「川崎さん」
ほかの人達は、冷いんですね。」

まあ こんなとこかな? あとで○○さんは下りリフトに乗り、みんなのさらし物になって、リフトの管理人に、おこられました。
おたすけマンは、清水さんでした。どうもごくろうさまでした。
最後に、「気をつけよう! 短い足、雪にくったて、おっこちて、
世間のさらし物。」

OKスポーツ訪問記

「おじゃましまーす」 「やぁ!! いらっしゃい」

3/8 隣のOKスポーツ店についに行ってまいりました。 店長の丸山さんは、とても愛想よく店内を案内してくれました。

「これは何ですかー?!」
「あぁ それはね 例えば山の中でボー こんな風になった時ボーッとしたのさ ホレッ 見ててごらん」

…などと私達の目の前で実際に身につけてくれるんです。
思ったよりも小じんまりした店で、それだけに売る方と買う方の心が通いあえるそんな印象が強くかんじられました。
山たすげの大村兄弟と三浦さん こぶしがらは大島さん、長沢さん師ちゃん
そして今これを書いている妹の計6人でワイワイがやがやお邪魔しました。

結局わたし達はエントラントの雨具をそれぞれ買って、師ちゃんと長沢さんは山用の帽子をかってきました。
ちなみに注目すべきなのは、山用の帽子といっても町へちょっこら出かける時にかぶってもおかしくないような 街人帽子なんですよ!

参考までに…… ○○○・ エントラント雨具 上下で ¥13,000−
サイズは 155〜185くらいまで
「Sサイズ」で充分です。

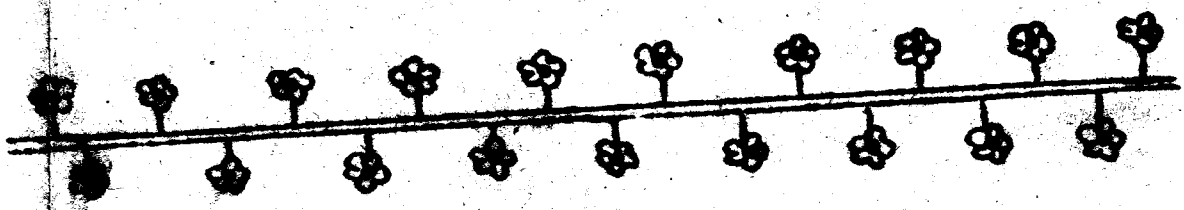
靴 ¥25,000 〜 ¥50,000まで
ザック ¥15,000 〜 ¥22,000まで

それでは店長の御紹介を一言 「オッホン」
丸山正明さん ―― 年のころは、40才前後
マスクは"ヤタオオジ・キンヤ"まかいのいい男♥
品物について素人にも良くわかる説明をしてくれるのでたいしたもんだと思いきや、自分でもトレッキング(世界三大氷壁)なる山に登山して本を出しているのです
実践に基づく言葉だったんですね …… ケン

とにかく好感のもてる人でした
ぜひ一度 皆さんも会かけてみて下さい　義はしない買物が出来るはずです
（あっ　そうそう　絶対 おすすめしないのです　ムフフ）

品物を1ヶ1ヶ手に取って、親切な説明を受けている合い間に　さりげなく
多々 新　されたり　ながなが手厚い歓迎を受けました!!

あ!　昆布茶を御馳走になりました　とても美味しかったです



編集後記

作った作った花見の
シーズンですね〜〜

怪物が高くになる者!
長い長い御手紙を
頂いています
どんどん送って来て下さいネ

かたい事は抜きにして楽しく
ゴジって大次元を創
ンえではないでしょうか

編集部一同　まってます〜〜す
（ポポイック・神ちゃん・ゆきこ）

フィルム
記録用の冬はもう終り
思いっきり翼を伸ばして春へ
飛び出しましょう!!
です　さぁ　あなた様から!

暖かくなってハエもカエルもゴキブリも
活動開始、ついでにカメムシも　どこまで
この虫正式名なんていうのかなあ
だれかおしえて……　変臭員より